

報告

義肢装具 SIG 第 11 回講習会

東京電機大学 理工学部 4 年 飯島 裕平

1. はじめに

2015 年 9 月 5 日に東京電機大学東京北千住キャンパス（東京都足立区千住旭町）において、義肢装具 SIG 第 11 回講習会「義肢装具の今、そして未来！」が開催された。私の所属するバイオメカトロニクス研究室から、義手の研究テーマを進める 7 名がこの講習会に参加した。初参加で感じたことや、学んだことを報告したい。

2. 講義

「歩行運動を支える神経システム」、「脳血管障害者の装具療法とは」、「義手の海外事情」、「義手の最新事情」の講義が行われた。私は小児用義手の開発研究をしているのもあり、海外では野球用義手や、縄跳び用義手などの様々な遊びや、活動に合わせた義手が提供されており、「小さなときから義手があって当たり前」という考えが印象的だった。比べて日本では、「日常生活の 90% 支障なく生活ができる、義手は必要ない」との解釈で、必要性を認識していない違いに驚いた。幼少期から義手に慣れることができていることが成長や、考え方のさまたげとなるのではないかと感じ、今後の義手事情を変えたいという考えに共感した。

3. 義足のランニング「2020TOKYO に向けて」

鉄道弘済会の義肢装具サポートセンターの梅澤慎吾 PT と岩下航大 PT の進行のもと、「ハイパー義足ユーザー」が、市販の普段使用からスポーツ用までの義足を付け替え、それぞれの義足で指定さ

れたテンポで走るデモンストレーションが行われた。6 組の膝継手と足部の組み合わせの義足でテンポの遅い、速いに応じ、義足側の足を踏み出せているかによって走りやすいかが顕著に見てとれ興味深かった。他にも膝継手が伸展するまでの動作がテンポを合わせるのに重要で、ユーザーにも練習が必要だと感じた。私のように義足に詳しくない人でもわかりやすくすることで、走るために必要なことを考える機会となり、興味を持つことができた。

4. おわりに

講習会に参加し、義肢装具ユーザー方と小グループに分かれてディスカッションを行った。直接声を聞くことで義肢装具ユーザーを身近に感じ、義肢装具への要望や、体験談を聞くことができたことがよかった。次回の講習会にはリハエンジニアとして進んで参加したいと感じた。



図 1、図 2
義足ランニングのデモンストレーションの様子

東京電機大学
理工学部 電子・機械工学系
〒350-0311 埼玉県比企郡鳩山町石坂